遼寧省と神奈川県、ここが違う！

神奈川に来てから早９か月が過ぎ、私の研修生活も最後を迎えました。

神奈川での生活で慣れないことはほとんどありませんでしたが、地元の遼寧省での暮らしと違うところはやはりあります。今回はその違いについて紹介します！

１　通勤

日本、特に都会で暮らすには、電車移動が当たり前です。県庁には駐車スペースが少ないため、車通勤の職員はほとんどいないらしいです。地元の瀋陽にも地下鉄が２本走っていますが、正直、乗ったことはあまりありません。家から職場まで相当離れているので、就職した当初からずっと車通勤でした。もちろん、通勤だけではなく、買い物など普段の移動は全部車でした。

神奈川では二俣川という駅の近くに住んでいるので、県庁に行くにはバス一本、電車二本に乗る必要があります。今までずっと車通勤だった私にとって、正直しんどかったです。特にラッシュアワーの相鉄線とみなとみらい線はいつも缶詰状態で、手すりにつかまらなくても倒れる心配はありません。でも空いている時間に乗る電車は、結構快適なものです。中国では電車があまりなく、地下鉄が主要な交通手段なので、外の風景を見ることができません。人の少ない電車に乗りながら外の風景を見るのが私の日本生活の楽しみの一つです。

２　入浴

神奈川に来る前、自宅のお風呂で湯船に入ったことは一度もありませんでした。大半の中国人には湯船に浸かるという習慣はなく、立ってシャワーを浴びるのが一般的です。今住んでいる寮に浴槽がついているので、せっかくの機会だと思い湯船に入ってみると、とても気に入りました。お風呂場のおもちゃや入浴剤などの入浴グッズをいっぱい購入し、毎日帰宅してお風呂に入るのが一時的なマイブームとなり、まるで『テルマエ・ロマエ』のルシウスになったような気分でした。中国に戻ってもお風呂に入りたいと思います。

３　飲用水

神奈川に来てから、どんな季節にどこへ行っても、必ずキンキンに冷えた飲み物が出されるのが困りごとの一つです。瀋陽では、白湯かぬるい水、温かいお茶が出されるのが普通です。冷たい水は体に、特に女性の体に悪いという漢方医学上の説があり、自分は冷え性なので、だいぶ前から飲まないようにしていますが、神奈川に来てから、そのタブーを毎日破っています。たまに飲食店で「お湯もらえますか」と尋ねても、「え？お湯ですか」と変な目で見られます。寒い冬なのに、氷がいっぱい入っている水をガンガン飲む日本人はすごいと思います。

４　会計方法

一番カルチャーショックを受けたことはやはり日本の割り勘文化です。社会人になった中国人は割り勘の発想が消え、年上の人、男の人がその場にいれば、基本全額おごるこ

とになります。いつも同じメンバーで食事に行く場合は、持ち回りで全額おごる人を決めます。会計するとき、自分が払いたいと主張し、みんなが競い合っている場面もよく目にします。日本の場合、飲み会に参加すると、幹事の人が事前にみんなから均等なお金集めておいて、まとめて払うという形が普通です。大人数だったら仕方ないと思ったのですが、少人数の飲み会でもやはり割り勘を貫きます。最初は少し違和感を覚えたのですが、そのうち慣れてきて、急におごってくれる人が現れると、逆に意外で感激の気持ちになります。

5　支払い方法

中国はすっかりキャッシュレス社会になったので、瀋陽では財布を持ち歩かない生活をしていました。大きなショッピングモールや百貨店から、道端の屋台やお年寄りが経営している店舗まで、あらゆるお店を網羅しています。ウィーチャットとアリペイが主なモバイル決済アプリで、スマートフォンさえ持っていれば、全国どこへ行っても何不自由なく暮らせます。日本はまだまだ現金社会なので、財布を持たないとかなり不便ですが、今はコンビニや一部の店舗ではペイペイ、ラインペイなどがだんだん普及し始め、交通系 IC カードもスマートフォンに入れて使えるようになりました。神奈川県の企業庁もラインペイを導入し、上下水道料金をスマートフォンで支払えます。でも実際に目に見え手に取ることができる現金の方が安心だと考える日本人もまだ多いらしいので、日本社会のキャッシュレス化は道のりが長いと感じました。

いよいよ神奈川県での暮らしはカウントダウンを迎え、今の一分一秒が愛おしいです。これほどの違いがあっても、神奈川県のことが大好きで、ここでの日々は一生忘れられない宝物です。またいつか戻ります！